

報告第1号

令和7年度 事業計画・報告

特定非営利活動法人 color

1. 児童発達支援センター 児童発達支援 放課後等デイサービス 居宅訪問型児童発達支援 保育所等訪問支援	児童発達支援センター くるーる
2. 多機能型事業所 児童発達支援 放課後等デイサービス 保育所等訪問支援 就労継続支援 B 型	みずたま (みずたま・きなり)
3. 相談支援事業 特定相談支援事業 障害児相談支援事業 地域移行支援事業 地域定着支援事業	相談支援センター さくら
4. 日中一時支援事業	そらのいろ そらのいろ・くるーる
5. 委託相談 高梁市障害者相談支援事業 巡回支援専門員整備に係る業務委託	たかはし障害者総合相談センター レイユール 相談支援センター さくら たかはし発達障害者支援センター
6. 学習支援事業 学習支援塾 通信制サポート校	さいさい いぶき高等学院
7. ひきこもり支援	ひきこもりサポートセンター いろは
8. その他法人事業 行事・イベント 一時預かり事業 自発的活動支援事業 親の会支援 研修・講習会	夏祭り・WinterFestival いろいろ ぶどうの会

1. 児童発達支援センター くるーる

(1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
①児童発達支援	月～土曜日	9:00-15:30	20人
②放課後等デイサービス	月～土曜日	9:00-15:30	20人
③居宅訪問型児童発達支援	月～土曜日	9:00-15:30	
④保育所等訪問支援	月～土曜日	8:00-17:30	

(2) 各事業目標および結果

【計画・目標】	【結果】
① 児童発達支援	
利用目標人数(延べ)： 4,720 人	利用人数:4,394 人 契約人数：66人
・保護者に療育の見学の間を設け、子どもへの関わり方を伝えていく支援を活発に行う(継続) ・リハビリ(高梁市障害児機能訓練事業)の取組を広報する ・周辺市町へ事業の広報を行っていく	・療育の見学が可能であることを保護者に伝えている。希望のあった保護者に対して見学と療育説明を行った。所属園からの見学希望もあり対応した。今後も希望があれば対応していく。 ・機能訓練事業は6名の方が利用された。療育スタッフも見学させてもらい、日々の関わり方や支援の仕方などアドバイスをいただいた。その他の利用者への支援についても必要に応じて相談させていただいている。 ・総社市や新見市などから時々空き状況についての問い合わせをいただいている。今後も積極的に受け入れを行っていく。
② 放課後等デイサービス	
利用目標人数(延べ)： 430人	利用人数:241人 契約人数：8人
・外出療育を実施し、事業所内だけではできない社会経験を積んでいくことができるようにする ・就学後の学校と連携しながら安心して学校生活を送ることができるように支援していく ・就学後、継続利用の意向がある児童は、他事業所への移行も含めて支援をしていく	・周辺施設への買い物やバスの利用など外出療育を実施した。事前に予告など行い、ルールを守って外出することができた。今後も色々な社会経験を積んでいくことができるようにしていく。 ・利用者は幼児期からの継続利用の児童が主であるが、新規の利用者の受け入れも行っている。必要に応じて、みずたまや他事業所への移行も行っている。他事業所への移行の際には他事業所の見学や引継ぎを行い、不安なく移行できるようにした。 ・就学後には保護者に連絡し、利用時の様子を確認した。また療育の継続の有無に関わらず就学後にはスクラム会議を行い、学校からも様子の聞き取りを行った。
③ 居宅訪問型児童発達支援	
利用目標人数(延べ)： 2人	利用人数：0人 契約人数：0人
・利用できる体制を整えておく(継続) ・医療的なケアが必要な児童の有無など地域の対	・今年度も利用実績はなかった。今後利用希望があった際に対応できる体制を整えておく。

象となる子どもの情報を保健師等と情報共有をしていく(継続)	・医療的ケアの必要な児については、自立支援協議会児童部会で名簿を整理し、保健師等と情報共有し体制を整えている。
④ 保育所等訪問支援	
利用目標人数(延べ)：125人	利用人数：61人 契約人数：6人
・定期的に訪問することで、園や学校での集団活動へ参加することができるよう継続的な支援を実施する ・保育所等訪問支援の事業内容や目的を園や学校へ改めて説明し必要性の理解を求める	・保護者や園からのニーズが少なく、利用人数は減少している。利用している児には定期的に支援や情報共有を行うことができた。 ・事業の必要性を理解してもらいにくかったり、訪問先との情報共有の時間が取りにくかったりする場合がある。どのような目的で訪問支援を行うのかを丁寧に確認しながら園や保護者のニーズに答えていきたい。

(3) その他(研修・スクラム会議 等)

・外部の研修に積極的に参加する ・スクラム会議や個別支援会議で関係機関と情報共有していく ・日中の研修を継続し、どのスタッフもが同じような支援を提供できるように研修体制を整えていく	・外部の研修は職員に周知した。今後も参加希望があれば勤務調整を行っていく。 ・スクラム会議、個別支援会議を年1回以上行い、情報共有を行った。保護者からの聞き取りのみに限らず必要に応じて園に連絡して様子の共有を行った。 ・日中の研修は職員の勤務の都合で継続的に参加しにくい。勤務時間外の研修は動画配信を行うことで、全ての職員が支援の仕方について学ぶことができた。
--	--

2. みずたま

(1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
① 児童発達支援	月～土曜日	13:00～18:30	10名
② 放課後等デイサービス	月～土曜日	13:00～18:30	10名
③ 保育所等訪問支援	月～土曜日	8:00～18:00	
④ 就労継続支援B型	月～土曜日	9:30～15:30	15名

(2) 各事業目標

【計画・目標】	【結果・課題】
① 児童発達支援	
利用目標人数(延べ)：60人／年	利用人数：108人 契約人数：5人
・就学後を見据え、必要な支援の整理を行い就学に向けた目標を立てる(継続) ・就学についての情報提供を行い、具体的なイメージを持つことで本人・保護者不安を解消していく(継続)	利用前に十分に聞き取ることで、保護者や本人のニーズや本人の状況、学校の状況も踏まえて支援の方向性を定めることができた。

② 放課後等デイサービス	
利用目標人数(延べ): 3,300人/年	利用人数: 3,421人 契約人数: 97人
・学校や適応指導教室等と連携し、不登校児の支援を行う。不登校児童について、日中の居場所や相談先として、積極的な受け入れを行なっていく ・卒業後の進路をイメージできるよう、高校、就職先とも情報共有していく。また、療育で体験活動などを取り入れる	適応指導教室を利用する児童はいなかったが、学校と目的を共有し、登校できなかった日に居場所として提供でき、継続することで、登校に繋ぐことができた。やり取りができない高校もあり、情報共有の場は少なかった。中学校からの高校への情報提供の内容検討に参加し、保護者や中学校と検討している。
③ 保育所等訪問支援	
利用目標人数(延べ): 100人/年	利用人数: 75人 契約人数: 14人
・本人が学校等でどう過ごしたいと考えているのかニーズを把握し、学校とすり合わせながら、その場毎に適した手立てや対応方法を関係者で共有し支援を行う(継続) ・不登校状態にある児童については、同行して登校することにより登校しやすい環境を整えていく	本人の捉えを療育時に確認し、訪問で実際の状況と併せて学校に伝え、目標をすり合わせ、共通して取り組めるよう支援を行った。学校に意図が伝わらず、支援方法を共有しにくいこともあった。不登校状態にある児に、体調不良や本人からの拒否があり、登校に同行することはできなかった。
④ 就労継続支援B型	
利用目標人数(延べ): 3,320人/年	利用人数: 2,562人 契約人数: 23人
・工賃向上のため、カレー販売の頻度と食数を増やす ・新規作業を増やすことができるよう、地域の企業等に仕事の切り出しができないかお願いをしていく ・既存の活動の生産効率を上げるよう支援方法を検討する ・余暇活動について、関係機関から周知、参加者を増やしていく	毎週カレー販売ができるサイクルができ、配達でも多い時にはイベントと同様の食数が販売できた。農福連携も試みているが、条件に合致していない。個々に合った作業の補助具などを作成し、作業人数が減っても効率が下がらず取り組めた。見通しを持って参加しやすいように、年間予定を作成し、参加人数を増やした。

(3) その他(研修・スクラム会議 等)

・他事業所を見学し、情報交換をしていくことにより、工賃向上、支援の質の向上に努める ・いろいろなスタッフがスクラム会議、研修に参加できるようにスキルアップに努める。(継続)	他事業所の見学をする機会は十分につくることができなかった。 スキルアップや新しい資格習得のための研修に参加できた。
---	---

3. 相談支援センター さくら

(1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間
① 特定相談支援事業	月～土曜日	9:00～17:00
② 障害児相談支援事業	月～土曜日	9:00～17:00
③ 地域移行支援	月～土曜日	9:00～17:00
④ 地域定着支援	月～土曜日	9:00～17:00

※上記以外の時間については、携帯電話で対応する。

(2) 各事業目標

【計画・目標】	【結果・課題】
① 特定相談支援事業	
契約目標人数： 50人(継続も含む) ・どの相談支援専門員であってもさまざまなケースに対応できるよう、事業所内外でのケース検討会等の機会を増やす ・地域のインフォーマルな社会資源を活用できるように情報収集していく ・医療やサービス事業所等と情報共有を行い、関係機関との連携、情報共有を密に行っていく(継続)	契約人数： 45人 ・月に 1 回の会議で各担当ケースの検討を行い、3ヶ月後に振り返りを行ってきた。また、毎朝の会議時にもケース報告をするため、その方の状況やどのような対応したか等も分かり、相談支援専門員それぞれのケース対応時のヒントや参考になっている。 ・インフォーマルな社会資源の情報収集はおこなうことができなかった。 ・概ね担当ケースを通して医療やサービス事業所、関係機関との連携や情報共有を行うことができた。
② 障害児相談支援事業	
契約目標人数： 165人(継続も含む) ・児童数が減少している反面、中学校入学後も福祉サービスを利用する児童は増えている。また、不登校状態の児童数も増加傾向にあるため、卒業後の相談体制を事業所と連携し、フォローしていく。 ・モニタリング月に関わらず日常的に相談しやすいよう相談機会を設ける ・市で行う就学前の説明会の補足を行うため、事業所での説明会を実施する。	契約人数： 161人 ・、不登校状態の児童には、学校とも連携しながらの対応やフォローも行ってきた。高校や他市の園、学校との連携や情報共有の難しさを感じた。 ・事業所への送迎の時等に、ご家族に声を掛け最近の様子等含めて話を聞かせてもらったりと気軽に話し掛けやすい雰囲気を作るようにした。 ・くる一るを利用の方を対象に就学前の心配事等の相談会を実施したが、参加者が 1 名であった。 毎年実施するが、参加希望者が 1, 2 名程度で個別面談になっている。今後、開催の仕方やテーマの変更等、検討が必要と感じている。
③ 地域移行支援事業	
契約目標人数： 2 人 ・新規事業。まずは関係機関等へ広報し、退所・退院者支援を積極的に取り組む。 ・地域資源の情報を収集する。	契約人数： 0人 ・今年度の利用者はいなかった。次年度も関係機関等への広報を行っていく。
④ 地域定着支援事業	
契約目標人数： 2人 ・新規事業。まずは関係機関等へ広報する。 ・新規事業に関連した研修を行う。	契約人数： 4 人 ・担当ケースの方で対象になる方や今まで一般相談で対応していた方で対象となる方に事業の説明をし、契約、支援に繋がった。

(3) その他(研修・スクラム会議)

・スクラム会議を継続して実施し、高梁市の支援体制を整えていく。 ・自立支援協議会等に参加し、相談支援事業から見えてきた高梁市の課題を伝えていく(継続) ・高梁市や他の相談支援事業所と情報共有をしていき、新しい情報を収集していく。	・年度に1回は必ずスクラム会議を行い、個々によって必要であれば、定期的開催をしてきた。園や学校と連携することがスムーズになり、支援の継続にも繋がっている。 ・児童部会、地域生活支援部会、就労部会に参加している。それぞれの部会の視点で、高梁市の地域資源や社会資源から強みの部分を見出し、問題を解決していけるよう部会員と一緒に取り組んだ。 ・それぞれの法人や相談支援事業所、相談支援専門員の考え方等もあり、情報共有や連携することの難しさを感じた。 - 同法人内では、しっかり情報共有ができています。
--	--

4. そらのいろ／そらのいろ・くるーる

(1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
そらのいろ	月～土曜日	8:00～18:30	20名程度
そらのいろ・くるーる	月～土曜日	8:00～18:30	10名程度

(2) 各事業目標 (契約者数 そらのいろ: 100人 そらのいろ・くるーる: 30人)

結果 (契約者数 そらのいろ: 110人 そらのいろ・くるーる: 105人)

【計画・目標】	【結果・課題】
① 放課後利用 ・公園や園庭などを積極時に取り入れ、家族が安心して預けることができる場所を提供する。 ・下校時の状況を学校と情報共有しながら、個別に応じた支援を検討する	・事業場がくるーる 2 階になったことで、放課後は園庭も活用しながら過ごすことができるようになった。 ・学校の情報を十分に共有できていないこともあったため、スタッフ間での情報共有を徹底していく。
② 土曜日、長期休暇等利用 ・安全に各自が楽しめるよう、活動内容とエリアの利用を工夫しながら取り組む。 ・事業所環境の変化があるため、利用児(者)、家族に十分に情報提供していく ・公共施設や公共交通機関などの家庭では経験できにくい活動を取り入れていく	・4 月から横町、7 月からくるーる 2 階と事業場が2回変更になっている。以前に比べスペースは狭くなっているため活動エリアを工夫し、スタッフが全体を見渡すことができるようにしている。 ・利用する子どもたちの多様化により、外出の機会は以前よりは減少している。

③ 送迎利用	
・保護者や学校と確実に情報共有し、時間のミスないう送迎を行う。 ・ゆとりをもって送迎を組むことができるよう、あらかじめ配車、配置スタッフの確認をしていく。	・送迎の確認は、ダブルチェックをする体制をつくりミスの内容に気を付けている。数回送迎を忘れていたこともあったため、確認の怠りがないように今後も十分に気を付けていく。

(3) その他(研修・スクラム会議)

・自閉症や発達についての研修に参加し、特性について深めていく ・成人期の余暇支援についてもニーズに合わせて提供していく。	・事業所内での研修に参加している。個々に合わせた支援について、スタッフ研修でケース検討を行い支援方法について工夫している。 ・成人期への余暇支援は十分に行えていない。
---	--

5. レイユール(たかはし発達障害者支援センター・相談支援センター さくら)

(1) 営業日・時間

	営業日	営業時間
レイユール	月～金曜日	9:00～17:00

(2) 各支援目標

【計画・目標】	【結果・課題】
① 保育・教育	18歳未満 71名 延べ 3546 件
・園、学校、学童への訪問支援について改めて周知し、訪問支援の目的、終息のタイミングなどを共有していく。 ・自立支援協議会児童部会と協働し、小学校移行後の継続的な支援や市内の高校との情報交換会の実施など市内の支援体制の充実に努めていく。 ・福祉サービスに繋がっていない子どもに対しても保護者や関係機関等への聞き取りを行い、必要に応じてスクラム会議を実施し必要な支援体制を整えていく(継続)	・月に1回、2回程度、訪問を行い、個別の支援の方法の提案や環境調整等をおこなった。 (5園と4学童からの依頼) ・小学校移行後の確認のため小学校に訪問する機会があったが、継続的な支援に繋がるまでには至らなかった。市内にある2つの定時制高校とは学校訪問や情報共有していきながら、進めて行くことができた。卒業後の進路先に福祉サービスを検討している生徒さんや保護者へのサービスの利用までの流れや見学同行等もおこなった。
② 就労・成人期	18歳以上 71名 延べ 1353 件
・困難事例については積極的に他機関の介入をお願いし、連携をとりながら支援していき、事例検討会を開催することで地域支援者のスキルアップにつなげる ・企業への支援を充実できるように、一般企業への役割の周知に努めていく	・困難事例については、他機関と連携しながら、対応することができた。相談支援専門員が1人で抱え込まないようにチームで進めていくようにした。 ・他機関(就業・生活等)との連携は難しさを感じるが多かった。相談支援専門員の役割が説明でき、他機関の役割等もしっかり理解した上で、役割分担や共有していくことが十分にできなかった。

(3) その他(センター内会議・関係機関連係 等)

・基幹相談支援センターの役割を再確認しながら、発達障害者支援センターとして取り組むべき役割を果たす。 ・自立支援協議会(児童部会・就労部会・地域生活支援部会)への参加(継続) ・スクラム作戦の取り組みについて、市外に周知するとともに体制の継続、改善に取り組んでいく。 ・巡回相談の取組・成果報告を会議や研修会等を通じて周知できるようにしていく	・令和 7 年 4 月に高梁市の基幹相談支援センター設置となったが、体制づくりについてはこれから協議していく予定。年度末に、福祉課と4つの相談支援事業所での基幹相談支援センターの体制について協議し始めている。 ・児童部会、就労部会、地域生活支援部会への参加。 ・スクラム作戦(会議)は継続して行っている。児童部会で、課題の有無について確認をしている。 ・巡回相談の依頼は増加。取り組みや成果についての発表は行えていない。
---	--

6. 学習支援事業

(1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
さいさい	月～土曜日	16:00～18:00	12名程度
通信制高校サポート校	月～金曜日	9:00～15:00	2名程度

(2) 各事業目標

【計画・目標】	【結果・課題】
さいさい	
登録人数 12人	登録人数 9人
・主として宿題のサポートを中心に実施する ・長期休暇中(夏季・冬季)、宿題を中心とした勉強会等の開催を検討していく(継続) ・受験等個別に対応が必要な児童については、個別対応できる環境を整えていく ・春休み期間中に復習や振り返り学習等、不十分だったところを学び直す機会を設ける	・利用目的は高校受験に向けて、学校の宿題への取り組みなどさまざまであった。小学生は家庭学習が難しい児童、中学生は塾に通うことは難しい児童の利用が多く見られている。前年度から継続して利用している児童が多い。夏季休暇中は宿題日を設け、参加人数は少ないものの、作文系はニーズが高かった。療育の補助として今後も継続していく。
通信制高校サポート校【新規事業】	
登録人数 2人	R8 年度より、2名契約
・通信制高校と連携をとりながら、サポート校の役割について、市内中学校、高校等に周知していく。 ・不登校傾向や集団での活動が苦手な児童を中心に、個別や小集団で学習できる環境を整えていく	・通信制高校を始めるために、他のサポート校や提携校の情報を収集している。

(3) その他(研修・関係機関連携 等)

・不登校傾向にある家庭を対象とした研修を開催する	不登校に関する研修は実施できていない。
--	---------------------

7. 不登校・ひきこもりサポートセンター いろは

(1) 営業日・時間

	営業日	営業時間
不登校・ひきこもりサポートセンターいろは	月～金曜日	相談 9:00～17:00 居場所利用 15:30～17:00

【計画・目標】	【結果・課題】
相談人数 25人（延べ250人／年）	相談人数 25人（延べ 346人／年）
・昨年度行った実態調査結果をもとに、関係機関と連携し、個別支援を行っていく ・ひきこもり支援の必要性を広く市民や支援者へ周知できるようにチラシの再配布、広報に努める - また、研修会を実施し、ひきこもり状態にある方に対する適切な支援方法を関係機関と共有する ・個別ケースについては、今後希望する生活を確認しながら、ご本人のペースで社会参加につながるよう支援を継続する ・居場所、活動場所などの設置方法を工夫し参加しやすい環境を整えていく ・ひきこもり当事者の研修を実施し、地域の方にひきこもりの現状や必要な支援を伝えていく機会をつくる	・実態調査の結果をもとにリストを作成している。リストについては、毎年関係支援者と進捗状況を確認し整理していつている ・年度初めに小・中学校、地域市民センターへチラシの配布を行い広報した。 ・個別ケースについては、福祉サービスや医療機関受診につなぐことができたケースもある。 ・居場所利用をする方は 1 名のみであった。まずは、家庭以外の場所で過ごす経験を積んでもらっている。 ・研修は、当事者とその支援者を招き実施している。25名程度の参加者があった。当事者からの具体的な経験談を聞くことができ好評であった。参加者の中からひきこもりの相談につながったケースもある。

8. その他 法人事業

(1) 各事業目標

【計画・目標】	【結果・課題】
①行事・イベント	
1) 夏祭り	
利用目標人数 300人 地域団体、学生ボランティア等の参加を積極的に呼びかけ、地域交流だけでなく、color の活動の啓発につなげていく（継続） イベントをきっかけにおもちゃや衣類など物品を必要な世帯に配布していく	実績 180人 地域の交流については、「知り合いから声を掛けられて来た」と言って来て下さった方や、ボランティアの方にも多く参加していただき宣伝効果を感じた。ステージ内容でボランティアの方と一緒にすることで交流が図れたと感じた。こども神楽に参加していただいたこともありテーマである、高梁の伝統をあらためて味わえる良い機会になった。
2) Winter Festival	
利用目標人数 300人 地域の幅広い年齢層方に参加してもらえるような活動を目指す	実績 132人 地域との交流については、ステージを地域の高校に依頼したことでその家族が来られている様子があ

活動内容を工夫し今まで参加のなかった方にも興味を持ってもらえるような企画を検討する(継続) 事業所で回収した学用品の配布を行い、必要な物品の循環ができる機会を作る	った。防災について考えるでは起震車、防災〇×クイズを通して地震が起きた際の対応を学ぶいい機会となった。
③ 一時預かり事業	
利用目標人数(延べ) 150人	実績 19人 新規契約人数 3人
利用ニーズを再確認し、利用しやすい体制を整えていく 利用希望に確実に対応できるように、登録保育スタッフの確保、募集を継続的に行う	定期利用していたお子さんの入園に伴い、利用人数は大幅に減少。昨年は100名を超えていた利用人数が今年は19名。今年度は当初計画申請していた補助金も減額となった。今後は年150万円程度で継続する見込み。全体的に児童数が減少していることもあり、今後も利用者数が大きく増えることは考えにくい。関係機関への情報提供は継続し、必要とする家庭に対して適切にサービスが届くよう努めていく。
④ 自発的活動支援事業	
・ペアトレ及びステップアップ講座 ・発達支援講習会 保護者・当事者による研修 支援者向け支援研修 保護者向け支援研修	【ペアトレ・ステップアップ講座】 再参加者2名、新規1名の計3名で実施した。再参加者は、前回の学びを振り返りながら、子供への関わり方や対応の工夫について理解を深めていた。また、新規の参加者からは、できていないことではなく、できていることに着目する大切さや子供への伝え方を学ぶことができたとの感想があった。 一方で、毎回 SNS やチラシの配布等で募集を行っているが、参加者が集まりにくいとため、募集方法を検討して行く必要がある。 【保護者・当事者による研修】 インフルエンサー蓬郷さんによる講演の開催。50名の募集は数日で満席となり、影響力の大きさを感じた。保護者としての悩み等、参加した保護者も共感するところが大きいようで岡山県内からファンの方も多く参加があった。保護者・当事者研修は悩みのある家庭については支えになることもあるため、今後も定期的に開催していきたい。 【支援者向け支援研修】 今年度は、実施していない 【保護者向け支援研修】 今回は、『ライフステージごとの自己理解と家族の関わり』をテーマに、重松先生を講師に抑え研修を実施した。障害特性を踏まえた関わり方について学ぶ機会となり、不登校やひきこもりの子をもつ保護者、思春期や成人期を見据えて学びたい保護者等10名程度の参

	加があった。 毎年、テーマ設定に悩むことから、今後は、研修後アンケートを実施し、参加者の意見を参考にテーマを検討して行きたいと考えている。
⑤ 親の会支援（ぶどうの会）	
月に1回程度保護者が集まれる場を設定し、日常の困りごと、子どものことなどを話せるようにする。家族が主体的に活動できるように支援する。 保護者主体の研修会やイベントを開催する ・視察研修 ・消防署見学 ・ヨガ体験 ・懇親会 ・お菓子作り	今年度のテーマを決め会員さんを中心に活発的に活動を進めていくことができ有意義な時間を過ごすことができた。その活動を SNS に投稿する等して、会員募集するが新規の会員さんは増えていない。 会員登録9名の内、活動への参加は、7名。
⑥ 研修・講習会	
1) スタッフ研修（内部）（1～2回／月）	
・自閉症支援研修 ・コミュニケーション研修	・各事業所からケースを出し、ケース検討をした。他事業所のスタッフからもアドバイスが出ることで適切な支援につながるきっかけづくりとなった。 ・コミュニケーション研修は、法人内の他事業所スタッフ同士の交流の機会となった
2) 外部研修・講習会	
・自閉症研修（1回／2カ月） 川崎医療福祉大学 重松孝治先生へ依頼 ・外部講師研修	・2ヶ月に1回程度、業務後に研修を実施している。参加できにくいスタッフもいるため録画をして多くのスタッフが視聴できるようにしている。来年度は、講話の研修だけでなく実践を加えた研修を検討している。